

2021年度

J r B 総 合 科 目

注 意

1. 試験開始の指示があるまでこの問題冊子を開いてはいけません。
2. 解答用紙はすべて**H Bの黒鉛筆**または**H Bの黒芯のシャープペンシル**で記入することになっています。H Bの黒鉛筆・消しゴムを忘れた人は監督に申し出てください。
(万年筆・ボールペン・サインペンなどを使用してはいけません。)
3. この問題冊子は**8 頁**までとなっています。試験開始後、ただちに頁数を確認してください。
4. 解答用紙にはすでに受験番号が記入されていますので、あなたの受験票の番号であるかどうかを確認してください。
5. 解答は解答用紙の指定された解答欄に記入し、その他の部分には何も書いてはいけません。
6. 解答用紙を折り曲げたり、破ったり、傷つけたりしないように注意してください。
7. この問題冊子とメモ用紙は持ち帰ってください。

次の文章を読み、下記の設問1～6に答えなさい。解答は解答用紙の所定欄に記入しなさい。

1985年の男女雇用機会均等法の成立と女子差別撤廃条約の締結、さらに1999年の男女共同参画社会基本法の成立以降、日本では女性の社会進出と就業機会の拡大、男女の機会均等が¹⁾遅まきながら進展してきたことは周知の事実である。しかし、世界経済フォーラムの発表した2019年度版の「ジェンダーギャップ指数」によれば、日本の男女平等の度合いは、総合順位では対象国153ヵ国中121位であり、特に経済分野では115位、政治分野では144位である。実際、日本の就業者に占める女性の割合（44.2%）は諸外国と大差ないものの、管理職に占める女性の割合（14.9%）は、アメリカやフランスなど主要先進国の半分以下であり、衆議院議員に占める女性国会議員の割合（10.2%）は、世界平均の半分以下である。また教育分野では91位と少し順位を上げるものの、研究者に占める女性の割合（15.7%）は、OECD加盟国中最低であり、薬学・看護学等の分野では女性研究者が全体の半数以上を占める一方、工学分野では10.6%、理学分野では14.2%にとどまっている。もちろんこのような日本の状況はわれわれにとっては憂慮すべき事態ではあるものの、このような傾向自体は日本に限ったことではない。すなわち、企業や官公庁に占める女性の管理職の割合や国会や地方議会に占める女性議員の割合は男性のそれより低く、研究者に占める女性の割合、特に工学や理学の研究者に占める女性の割合は著しく低いのである。

しかしアメリカやフランスで始まった女性解放運動からもはや50年にもなろうかという現在、なぜこのような男女間の格差はいまだに存在し続けているのであろうか。1つの見方は、もともと男性も女性もその資質や能力に何の変わりもないものの、われわれの生きる社会が、徹底して男性が権力を握っている男性中心社会であり女性が社会の要職から²⁾排除されているから、あるいはそもそも女性が男性に従属するように社会的・文化的に育てられているから、というものであろう。もしこのような見方が正しいのであれば、管理職や国会議員に占める女性の比率がある一定の比率以上になるような制度的な仕組みを作るといって、アファーマティブ・アクションやクォータ制などの導入は、男女間の格差を解消する非常に有力な手段であることになる。実際、このような制度は日本を含め多くの国で導入されてきたのである。しかし、近年の進化心理学や行動科学、脳科学などの成果は、男女間の格差に関して、このような伝統的な見方とは少々異なった見方をわれわれに提示してくれている。以下このことを簡単に説明しよう。

現在の人類はおよそ600万年前にチンパンジーと分岐し、250万年前に現在の人類とほぼ同じホモ属が出現、20万年前に現在の人類そのものであるホモ・サピエンス・サピエン

スが登場したとされる。そして農耕と牧畜が始まったのが約1万年前、古代エジプト文明やメソポタミア文明が始まったのが約5000年前であり、産業革命が起こったのが200から250年前のことである。逆に言えば、人類は、その600万年に及ぶ歴史のほとんどで狩猟採集生活を送ってきたのである。人類がこのような狩猟採集生活を送っていた時代には、男性が狩りに出かけ、女性が木の実を集めたり子育てをしたりしていたとされる。このような生活を数百万年もの間続ける中で、男性の中では空間認識能力に優れており、それゆえ狩りを上手くできる者だけが生き残ることができ、女性の中では他人とのコミュニケーション能力に優れており、それゆえ子育てを上手くできる者だけが生き残ることができたであろうことは想像に難くない。また人類の場合、10ヵ月もの間子供をお腹に宿し、出産後2年もの間母乳を与えて育てることができるのは女性だけである。言い換えれば、女性は男性と比較して、子供をもうけるということ自体に、はるかに大きな投資を行わなければならないのである。このようなとき、女性はパートナーである男性をより慎重に選ぶことになる、すなわちパートナーの選択にイニシアティブを持つことになり、逆に男性は女性を求めて互いに競い合うことになる、とされる（このように交配戦略・配偶者獲得戦略に性差があることは人間に限らない）。そして重要なことは、人類はその600万年にも及ぶ歴史のほとんどを、このような狩猟採集民として生活してきたのであり、現在の人類はこのような生活に適応して生き残った男性・女性の子孫にほかならない、ということである。言い換えれば、進化論が正しいのであれば、現在のわれわれの脳の大部分は、このような狩猟採集生活に適応した脳のままであるということになるのである。

近年の行動経済学など行動科学の実証研究によれば、一般に男性は女性よりリスク愛好的であり、自信過剰であり、競争好きである傾向が観察できるのだという。もしこれが事実なのであれば、男性は組織の中でより出世しようとするだろうし、³⁾実際に出世しやすいであろうことは想像に難くない。そして進化心理学の考えによれば、一般に男性がそのような傾向を持っているのは、人類がその歴史の大半を狩猟採集民として生活してきたからにほかならない。狩猟採集時代には、男性は女性に選ばれるために、他の男性に対する自らの優位性を誇示しなければならなかった。現在の人類は、そのような試みに成功し無事に子孫を残すことができた男性の遺伝子を受け継いでいる。だからこそ、一般に男性は、リスク愛好的であり、自信過剰であり、競争好きなのだということのである。

また大学では、一般に男性は女性よりも数学や物理学を専攻する人が多く、逆に女性は男性より言語に関わる学問を専攻する人が多いという印象があるだろう。そして進化心理学の考えによれば、一般にわれわれがこのような傾向をもっているのは、現在の男性とは狩猟採集時代に空間認識能力に優れ狩りが得意であった男性の遺伝子を受け継いでおり、

現在の女性とは狩猟採集時代にコミュニケーション能力に優れ子育てが得意であった女性の遺伝子を受け継いでいるからにほかならない。もちろん、女性の中には、数学や物理学が得意であると同時にコミュニケーション能力に優れた人も多い。しかしさまざまな実証研究によれば、多くの女性は人間を直接相手にする仕事を好み、仕事を選ぶ際には仕事の個人的な側面より社会的な側面、金銭的報酬より内発的報酬を重視する傾向があるのだという。数学や物理学にもまたコミュニケーション能力にも秀でた女性⁴⁾は、職業選択に際して、物理学者やエンジニアではなく、医師や教師を選ぶことが多いというのである。

もし以上のような進化心理学や行動科学の認識が正しいのであれば、男女間の格差を改善する方策としては、アファーマティブ・アクションやクォータ制の導入が唯一の方策というわけではないということになるだろう。この点に関して参考になるのは、例えば、人事上の決定に早くから大規模なデータ分析を導入したG o o g l e⁵⁾の試みである。G o o g l eは人事に関する大規模なデータ分析を行うなかで、女性社員の退職が多いことの本質的原因が子供の有無にあることを発見する。実際出産したばかりの若い女性社員の退職率は社員平均の2倍に達していたのだという。そこでG o o g l eは、業界平均12週間だった母親の出産・育児に伴う休業期間を5ヵ月にし、新たに父親に7週間の育児休業を与えることにした。すると出産したばかりの若い女性社員の退職率は社員平均と変わらなくなったのだという。女性の社会進出をこれまで以上に実現するためには、単なる数値目標ではなく、このような理論やデータに基づいたエビデンスベースの政策が必要になるのではないだろうか。

1. 文中の下線部 1) に関して、日本の女性の労働力率には他のほとんどの先進国にはない特徴があるが、それはどのようなものか、そしてその原因はどのようなものだと考えられるか、150字程度で述べなさい。
2. 文中の下線部 2) に関連して A さんは、世の男性は何をしているか調べることにした。分析対象のデータは都道府県別に20万人を選び、月曜日から日曜日までの7日間に趣味・娯楽をしていた1日当たりの平均時間を調べたものである。分析対象から行動のばらつきが少なく、分析しやすい15歳以上の仕事をしていない男性（高齢者で引退した人が含まれる）を選び、Aさんが調べたところ、男性は時間がある場合、趣味・娯楽に費やすか、テレビ・ラジオ・新聞・雑誌を利用する時間が長くなっている特徴を見つけた。
 - i. 以下の表は対象データから1都3県に住む男性だけを抜き出して、1日あたりの趣味・娯楽の平均時間の推移を示している。解答欄に各調査年におけるばらつきの大さを計算し、ばらつきの大さが最も大きい年を答えなさい。なお、解答欄には解答だけでなく、計算過程も書きなさい。

表 1 都3県に住む男性の趣味・娯楽の平均時間

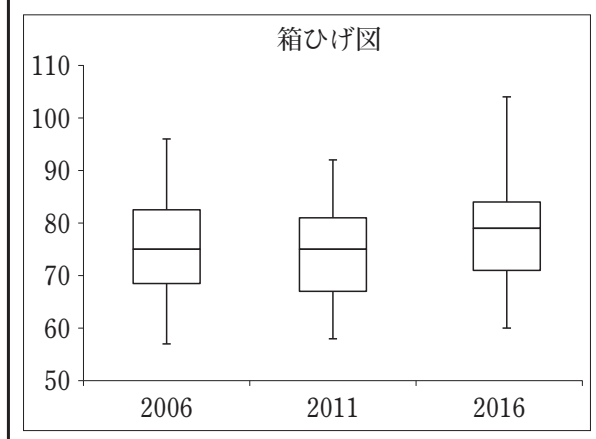
単位：分

	2006年	2011年	2016年
埼玉県	92	80	70
千葉県	86	77	90
東京都	74	82	97
神奈川県	93	90	83

出所：総務省「社会生活基本調査」

- ii. 図1は都道府県別に全国の男性に対して、1日あたりの趣味・娯楽の平均時間の推移をまとめた箱ひげ図である。箱ひげ図は左から2006年、2011年、2016年となる。何がどう推移しているか、この箱ひげ図の特徴をデータに基づき、150字程度で説明しなさい。

図1 2006～2016年における47都道府県別平均値の推移：男性の趣味・娯楽の平均時間をまとめた箱ひげ図（単位：分）



出所：総務省「社会生活基本調査」

3. 下線部 3)に関連して、市場が競争的であるとはどのようなことか、また市場が競争的でない場合には、政府はどのような法的根拠に基づいてどのような介入をするか、150字程度で述べなさい。

4. 下線部 4)に関連して、ウナギのように年々価格が上がるものもあれば、卵のように長期間ほとんど変化しないものもある。こうしたモノの価格を比較する際に、基準となるある年のモノの物価を100として時系列データで示すことがある。モノの価格が長期間増加と減少を繰り返す、概ね横ばい傾向の生産物①、モノの価格が速いスピードで一貫して増加し続ける生産物②、モノの価格が速いスピードで一貫して減少し続ける生産物③、モノの価格がゆっくりと、一貫して減少し続ける生産物④の4つの変数があったとする。図2-1～2-4はA～Dの15年分の時系列データを散布図にプロットしたものである。①～④はA～Dのいずれかである。

i. Aが生産物②であるとき、①、③、④はB～Dのどれになるか、答えなさい。

ii. 図2-1～2-4の相関係数は-0.99, 0.99, 0.73, -0.73のいずれかである。どの図がどの相関係数を表しているか、答えなさい。

図 2 - 1

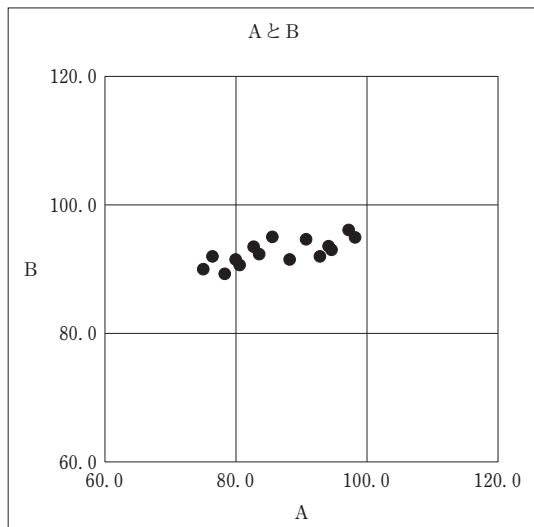


図 2 - 2

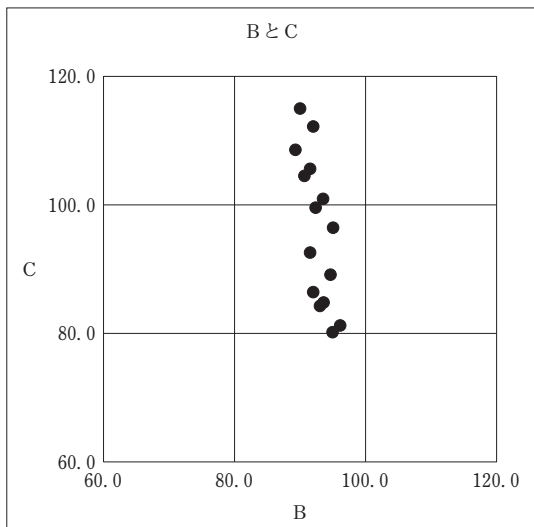


図 2 - 3

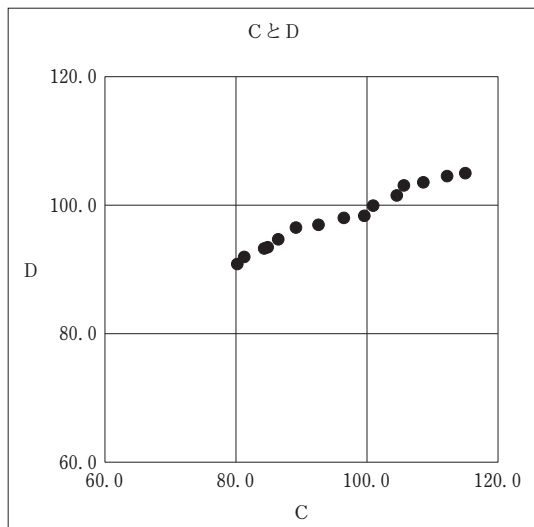
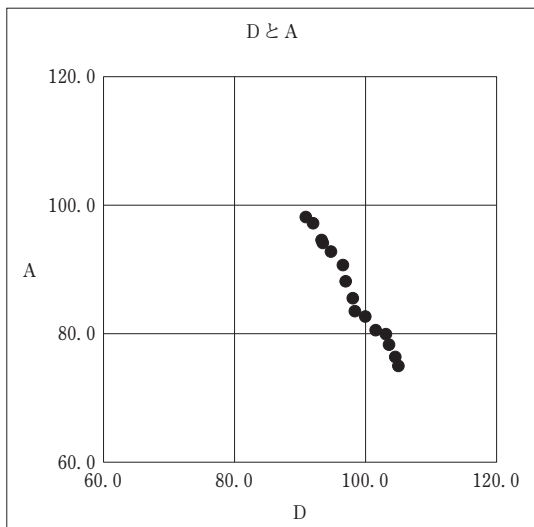


図 2 - 4



5. 下線部5)に関して, G o o g l e , A m a z o n , F a c e b o o k , A p p l e の 4 社のことはG A F Aと呼ばれるが, このG A F Aに関して国際的に問題とされていることにはどのようなことがあるか, 150字程度で述べなさい。

6. 本文全体の趣旨を踏まえて, 女性の社会進出を実現するために, アファーマティブ・アクションやクォータ制を取った場合には, どのようなメリットとデメリットがあると考えられるか, 自分の考えを200字程度で述べなさい。

【以下余白】